

〔 特 集 〕

子どものウェルビーイングを はぐくむ環境



近年、日本でも「ウェルビーイング」という言葉がよく聴かれるようになってきました。すべての子どもは、「ウェルビーイング」、すなわち、こころや身体や社会的な状態がその人にとってちょうど心地よくあり、またそこに向かっていくプロセスを保障される権利をもっています。

では、子どものウェルビーイングを形づくるものはなんでしょうか。ウェルビーイングは、その人の心身の特徴や遺伝的要素だけでは決まりません。子どもの養育環境、保育・教育、地域の環境や行政、文化などのさまざまな環境的な要因が、互いに作用しながら、また、子どもの育ちの時系列とダイナミックに交わりながら、ウェルビーイングに影響をあたえます。

今回の企画では、子どものウェルビーイングを実現するためのエッセンスを「環境」という視点から眺めます。読者のみなさまは読み進めるうち、各章に描かれたことが相互につながっていることに気がつけられるかもしれません。読者のみなさまのなかで、これらすべてがパズルのピースのようにハマっていき、すべての子どもの尊厳と最善の利益を実現するような環境のあり方の未来像が思い描かれ、明日からの子どもへのまなざしや日々の実践に彩りを加えていくことを、企画者として心から願っています。

(国立成育医療研究センター/社会福祉法人 子どもの
虐待防止センター/こども家庭庁 山口有紗)

